

散歩のついでに富士山には登れない

(株)傳來工房 社長 橋本和良 はしもとかずよし

タイトルの言葉は、十年以上前に経営セミナーを受講したときに、講師から聞いた言葉である。確かに、富士山に登頂しようとする、その強い思いをもち、相応の準備をしなければ、目標は達成できない。まして条件の厳しい厳冬の富士山であればなおさらだ。人生の「志」も同じであろう。高い「志」をもてばもつほど、実現への思いが強くなければ、単なる夢想で終わってしまう。達成への意志が強ければ強いほど、困難な道のりも乗り切れる。

大手企業に勤務したのち、私の父が社長を務めていた(株)傳來工房に入社したのは、三十五年ぐらい前になる。入社当日の出来事が、今でも忘れられない。隣の席の若手社員に、「お近づきの印に今夜一杯いかがですか？」と声をかけたときのことだ。「経営者側の人間とは、行けない」との返答だった。

当時、弊社では激的な組合運動の嵐が吹き荒れていた。春闘や賞与の時期には、社外からオルグが三〇〜四〇人も団体交渉に参加し、連日深夜まで交渉が続いていた。私もわからぬまま、団交に参加していたが、社員の心が、完全に会社から離れているのを感じ、何とも言えないやりきれなさを感じていた。その後、私が中心となり会社と社員の関係を修復していったのだが、その過程で、ある思いが増幅していった。

社員が定年退職するときに、「よい会社に勤められて幸せだったなー」とシミジミ思ってもらえる会社になりたい、という思いであった。それ以降、その思いを私の志として、会社をつくり替えてきた。

去年還暦を迎え、五年後社長を後継者に譲る予定であるが、それまでに達成すべき「志」がある。傳來工房を、名実ともに「グレートカンパニー」と呼ばれるにふさわしい会社にするのだ。グレートカンパニーとは、社会的価値の高い「経営理念」のもと、その「企業らしさ」を感じさせる独特のビジネスモデルを磨きあげ、その結果、継続的成長を続ける会社であると同時に、お客様と協力会社様、社員が「すばらしい会社」と誇りをもつくらいの独特のカルチャーが形成されている企業。

この実現を私の「志」として、常に社員に語りかけながらそれを実現し、少しでも一隅を照らし、社会に貢献できる会社になりたいと強く願っている。